

日本災害看護学会先遣隊 台風第19号活動報告（宮城県）

活動メンバー: 白井千津・佐々木久美子

1. 活動の概要

活動日時: 令和元年 10月14日(月・祝)6:00~19:30

活動場所: 宮城県黒川郡大郷町

支援目的: 先遣隊活動

調査地区の特性: 大郷町は宮城県のほぼ中央に位置し、自然環境にめぐまれた豊饒の地である。仙台から車で約30分、三陸自動車道松島大郷インターへは5分、東北自動車道大和インターへは15分と、どこにも移動するのも便利です。町の中央部を西から東へ吉田川が流れ、その流域には豊かな水田地帯が広がっている。気候は温暖で積雪も少なく、自然豊かな環境にある。

総人口: 8089名(男: 3993名・女: 4096名)、世帯数: 2794世帯 <2019.4.1現在>

台風19号の被災経過: 宮城県大郷町粕川にある吉田川の堤防が決壊し、100棟以上の住宅が浸水した。それに伴い、10月12日(土曜日)午後2時30分に避難所(文化会館・大郷幼稚園)を開設。

活動日の状況(被災3日目):

活動日は、朝から風はあるものの晴れ渡っていた。被災地の役場に行く道路は、前日までは水浸しで通行できなかった道路も、既に水は引いていたが大雨の足跡が確認できた。

役場近くの吉田川周辺は川が決壊したため、一部湖のようだった。米の収穫が終わった水田に残されていたワラが、雨とともに道路に流れ出し、側溝を塞いでいた。また、道路わきに山積みに積まれているところが何か所もあった。

避難所: 文化会館、大郷幼稚園

2. 活動の実際

時間	活動の内容
8:00	<ul style="list-style-type: none">● 視察兼支援対象自治体に関する情報収集、知人の保健所職員から「これから検討し対応をしていくことになる」という情報を得た。 大郷町は役場保健師の数も少なく、自然災害もあまりない地域でもあるため、支援が必要と考えられたため大郷町出身者から役場保健師につないでいただく。
	<ul style="list-style-type: none">● 視察兼支援対象自治体決定: 宮城県黒川郡大郷町(吉田川決壊により避難所開設)
13:00	<ul style="list-style-type: none">● 大郷町役場において情報収集 対応者: 大郷町保健福祉課保健師2名、日本災害看護学会先遣隊2名 内容: 1. 吉田川決壊により被害があった地域の確認 1) 中粕川地区 106戸(住宅密集地域)<ul style="list-style-type: none">・避難所なし・区長による安否確認済・在宅酸素療法中の住民1名2) 土手崎地区 34戸<ul style="list-style-type: none">・2階まで浸水・アルコール依存の方1名が自宅2階に残っている(救助拒否)。家族は避難している。2. 避難所: 1) 文化会館(町内): 30名弱

	<ul style="list-style-type: none"> ・看護職不在 <p>2) 幼稚園（木の崎）：100名（10/13 120名）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護職常駐（日勤・夜勤交代している） ・車中泊者が10～13名 <ul style="list-style-type: none"> ・2か所に開設して避難所を1か所に集約するか検討中。 ・食事：文化会館は住民からの差し入れで対応。幼稚園はアルファ米、おにぎり、菓子パン <p>3. 要支援者：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神障害者：文化会館1名、幼稚園3名 ・身障者：幼稚園1名 ・妊婦は本日退所 ・要援護者は、1名が緊急ショートステイ利用となり、支援の必要な人はいない。 <p>4. 今後の予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・14時から保健所との話し合い、16時から対策本部会議 ・避難所を1カ所に集約することを検討。1か月間の開設予定である。 <ul style="list-style-type: none"> ● 日本災害看護学会として支援物資の準備・提供
13:40	<ul style="list-style-type: none"> ● 当面必要となる物資、避難所で不足している物資の確認・買い出し・避難所に配布 <p>購入物品：手洗い用石鹸、アルコール手指消毒薬、マスク、大人用紙おむつ、生理用品、歯ブラシ、ハンドペーパー、他を直接避難所に運ぶことになった。</p>
13:50	<ul style="list-style-type: none"> ● 10月15日13時から避難所開設の支援を行うことになる。
14:15	<ul style="list-style-type: none"> ● 役場において塩釜保健所黒川支所長と保健師に面会、学会としての動き等を説明する。今後、情報共有しながら対応していきたい旨を説明する。 ● 避難所である文化会館と大郷幼稚園に支援物資を届け、大郷幼稚園では避難所の状況を確認する。 <p>① 幼稚園の避難所の環境を確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難者はホールと教室に分散している。 ・フローリングのホールにゴザを敷き、夜は毛布を下に敷き、うえでかけて寝ている。特に仕切りはない。 ・教室の中にげた箱様のたながあり、靴がその中に置かれている。また、廊下の一部に外に通じるドアがあり、すぐそばにシートを敷き、汚れが付いた靴が置かれている。 ・トイレは子ども用が主である。どのように利用しているか未確認。 <p>② 幼稚園に従事している保健師が避難者の健康確認を兼ねた残薬確認を行っていた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 保健師1人で残薬確認等の面接を行っていたため、支援を申し出るが、役場に確認後に対応無しとなる。
16:00	<ul style="list-style-type: none"> ● 塩釜保健所黒川支所長から電話連絡 <ul style="list-style-type: none"> ・10月15日、避難所を道の駅に移す。その後健康調査を行う。 ・現在、イライラする、夜間眠れない等の訴えがあり、夜間のみ看護職の支援をいただきたいが対応可能かどうかの確認あり。 ☑夜間の看護職の支援要請は看護協会に支援ナースの派遣依頼をしてほしい。明日から1泊2日の予定で日本災害看護学会の支援が可能か検討する。支援する間に支援要請をしてほしい旨伝える。 ● 日本災害看護学会先遣隊2名が1泊2日で対応することになった。 ● 宮城県看護協会に大郷町の状況を説明し、支援ナースの申請があることを電話で連絡する。 ・専務理事が対応。申請があれば対応するが、明日になる。
18:00	<ul style="list-style-type: none"> ● 丸森町の情報を得るため、知人を通して情報収集を行う。結果として、「支援がたくさん入っている為、今回は不要」と回答を得た。

3. 課題

- 大郷町保健福祉課課長および保健師から情報収集を行った。自然災害が少ない地域であり、また、若手の保健師のみであり、何をどうしていいのか、必要と思う支援はあるのだがどのように声を出していいかわからない状況にあるように思われた。
- 役場職員は現状対応に精一杯であり、先を見通した、予防的な対応が難しい状況にあると推察される。明日、2つの避難所を集約し、新たな避難所を開設するにあたり、避難者にとって少しでも生活しやすい、予防を重視した環境を整えられるような避難所設営のために支援を行うこととした。